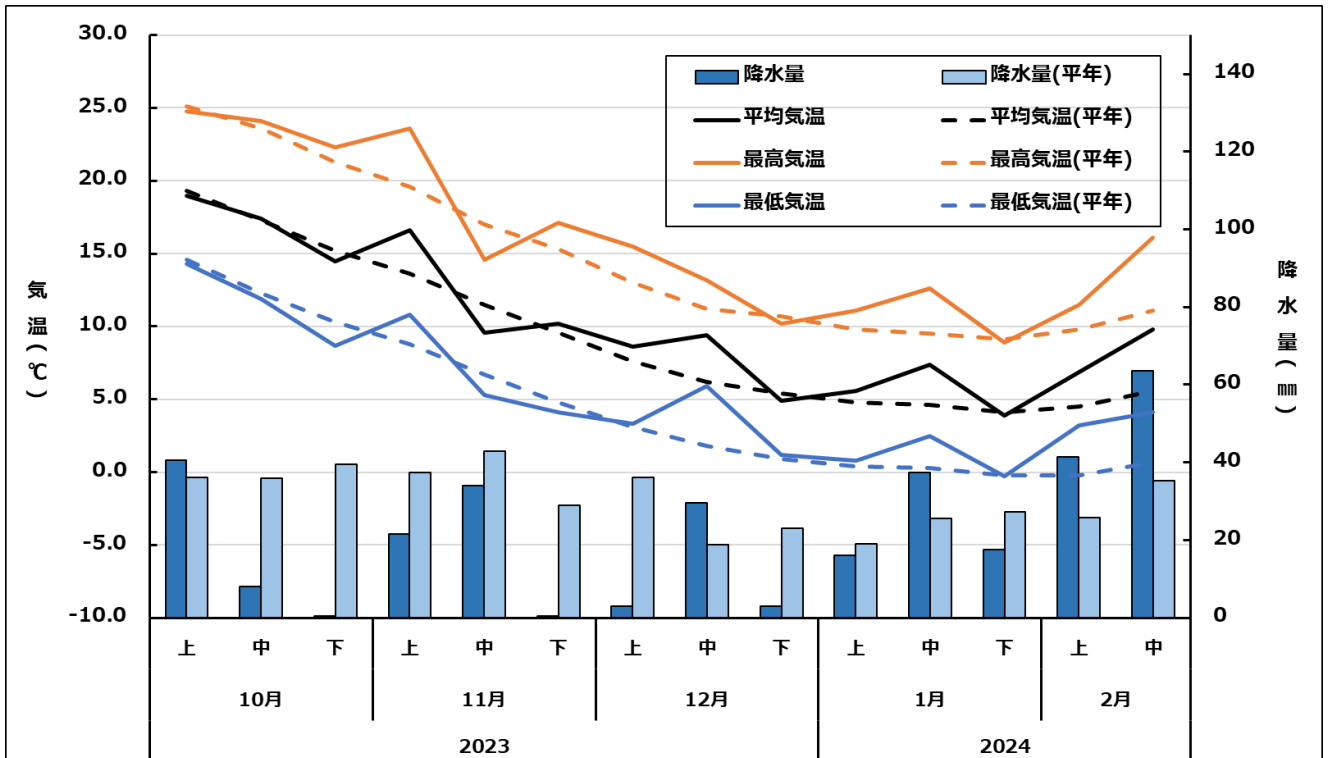


令和 6 年お茶づくり技術情報 (No.1)

2024年2月22日
佐賀県茶業技術協会
佐賀県茶業試験場

1. 気象と生育

1) これまでの気象 (2023年10月~2024年2月、嬉野市)



- (1) 平均気温は、平年と比較して全体的に高く暖冬傾向であった。特に、11月上旬、12月中旬、1月中旬および2月上中旬は高く、11月中旬は低く推移した。
- (2) 降水量は、平年と比較すると全体的に少なく、特に10月上旬~中旬および11月下旬~12月上旬はほとんど降雨がなかったが、1~2月の降水量は多い。
- (3) 現在の越冬芽は、昨年同時期とほぼ同じ大きさである (写真 1、2)。



越冬芽の長さ：約 8mm

写真1 2023年2月16日の
さえみどりの越冬芽 (昨年)
(秋整枝 10/15)

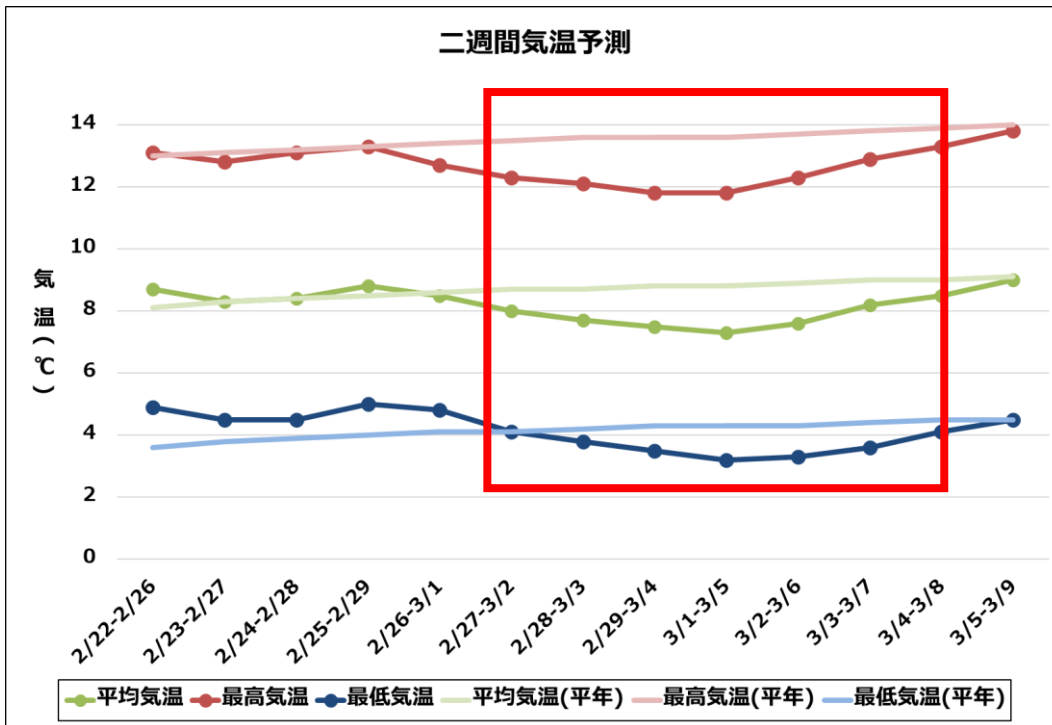


越冬芽の長さ：約 7mm

写真2 2024年2月13日の
さえみどりの越冬芽 (本年)
(秋整枝 10/19)

2) 今後の気象の見通し

■ 2週間予報 (気象庁、「確率予測資料」より)



※予測対象要素の平均気温、最高気温、最低気温は、それぞれ、日平均気温、日最高気温、日最低気温の5日間移動平均値。平均期間は各グラフのラベルの日付。

- (1) 2月末～3月1週目の気温は平年と比べると低くなる見込み。

■ 1か月予報 (気象庁、2024年2月15日発表)

向こう1か月の天候の見通し
九州北部地方 (山口県含む) (02/17～03/16)

	平均気温 (1か月)	降水量 (1か月)	日照時間 (1か月)
九州北部地方 (山口県含む)	低20 並30 高50% 高い見込み	少20 並30 多50% 多い見込み	少40 並30 多30% ほぼ平年並の見込み
数値は予想される出現確率 (%) です	<p>平均気温 (1か月)</p>	<p>降水量 (1か月)</p>	<p>日照時間 (1か月)</p>
	<p>低い確率 (%) 50 40 40 50 高い確率 (%)</p> <p>平年並ち40 J 以上 (%)</p>	<p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%)</p> <p>平年並ち40 J 以上 (%)</p>	<p>少ない確率 (%) 50 40 40 50 多い確率 (%)</p> <p>平年並ち40 J 以上 (%)</p>

- (1) 向こう1か月の気温は、寒気の影響を受けにくいほか、暖かい空気が流れ込みやすい時期もあるため高く、特に一週目はかなり高くなる見込みだが、二週目は寒気の影響で低くなり、気温の変動が大きくなる予想。
- (2) 一週目を中心に低気圧や前線の影響を受けやすいため、向こう1か月の降水量は多い見込み。
- (3) 向こう1か月の日照時間は、ほぼ平年並となる見込み。

2. 今後の管理

1) 土壌・肥料

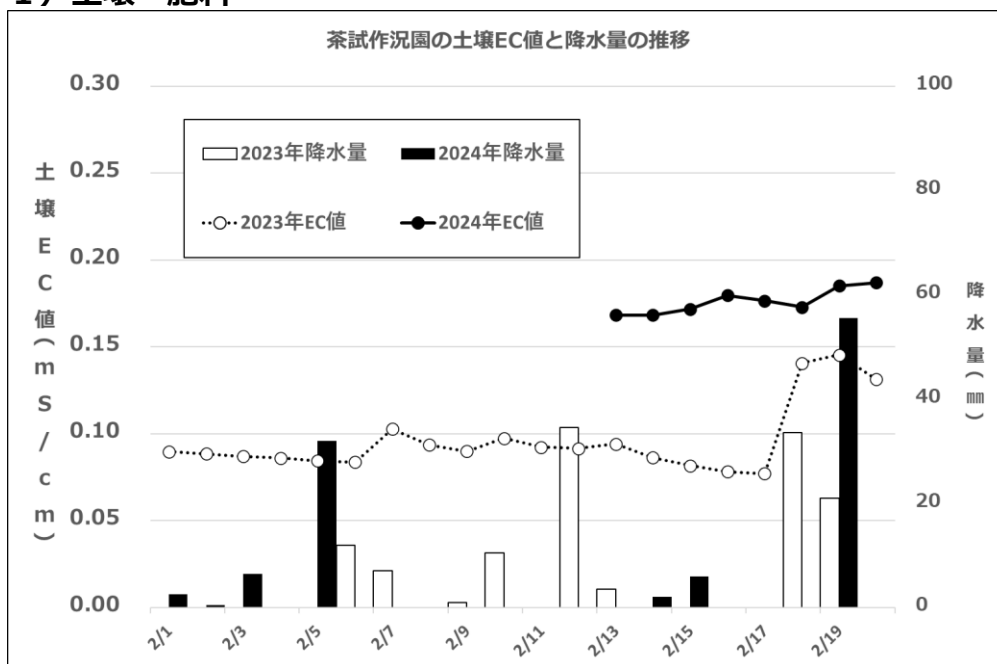


図 茶試作況調査園における土壌 EC 値と降水量の推移

注) 雨落ち部深さ 25cm 部分に埋設した土壌センサーにて測定し、実測値をもとに換算した値を示す
 注) 2/1~2/14 の EC 値は、土壌センサー不具合により未測定

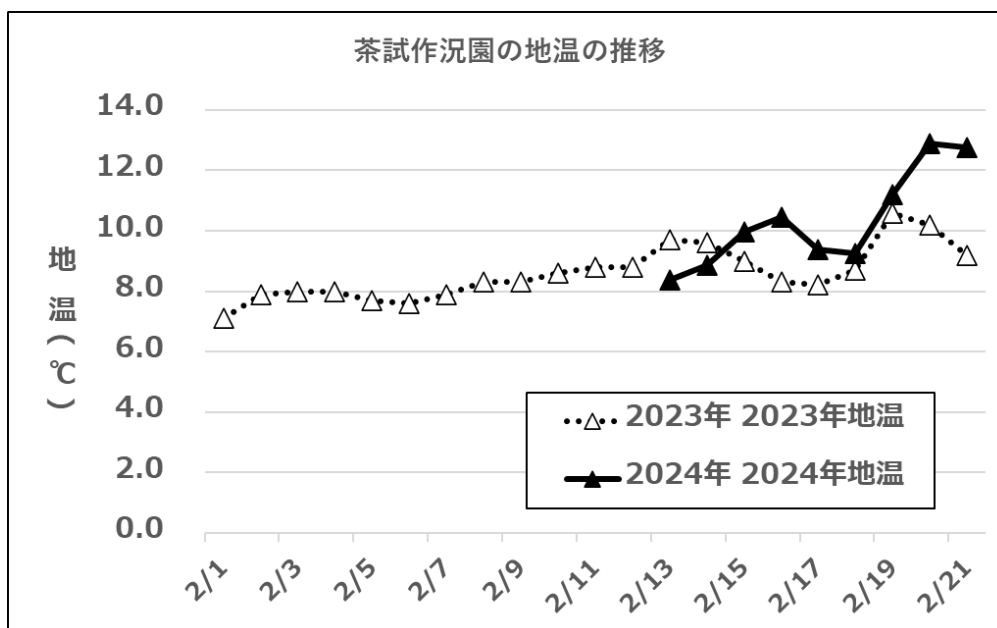


図 茶試作況調査園における地温の推移

注) 2/1~2/14 の地温は、土壌センサー不具合により未測定

- (1) 2月中旬以降の土壌 EC 値は昨年より高い値でほぼ横ばいに推移している。
- (2) 2月中旬以降の地温は昨年より高く推移している。
- (3) 今後の気温上昇に伴い、地温が上昇し、樹体の養分吸収が徐々に活発となる。
 また、有機配合肥料（春肥 I）は低温では分解に時間を要するため 3月上旬ごろまでには施用しておく。

(4) 施肥後は浅耕を行い、土壌と混和し溶脱を防ぐ。

2) 整枝（化粧ならし）

(1) 3月上中旬を目安に、新芽が秋整枝面より上部に出る前に行う。

(2) 新芽を傷つけないように、ハサミの高さは秋整枝面より深くしない。

作業が遅れ、秋整枝面より新芽が伸び上がった場合には、やや高めにハサミを入れ、新芽を傷つけないようにする。

(3) 再萌芽した茶園の対応策

○再萌芽した芽が開葉している → 化粧ならしで除去する

○再萌芽した芽が開葉していない → 秋整枝面より5mm程度上げて、出芽した芽を切らない

3) 防霜対策

(1) 防霜ファンは萌芽2週間前からの稼働を基本とし、早めに事前点検（温度センサー、首振り状態）を行う。

(2) 防霜ファンの設定温度は茶株面で3℃（茶株面より樹体は2～3℃低い）を基本とし、過度に設定値を上げない（晩霜害の発生助長やランニングコスト高となる）。

(3) 凍霜害の影響を受けた場合は、以下の対応策を参考に管理を行う。

生育ステージ	被害程度	対応策	
萌芽期～ 2葉開葉未満		被害の程度にかかわらず、そのままにしておく	
2葉開葉～ 4葉開葉	1)部分的で被害部と無被害部がはっきりしている場合	そのままにしておき、拾い摘み、または部分摘採を行う	
	2)部分的で被害部と無被害部がはっきりしない場合	①被害芽率が低い場合	そのままにしておく
		②被害芽率が高い場合	被害部を除く程度に軽く整枝する
	3)被害が全面的の場合	被害部を除く程度に軽く整枝する	
摘採期直前	1)被害が部分的の場合	拾い摘み、または部分摘採する	
	2)被害が全面的の場合	刈り捨てて二番茶の生育を待つ	